

大嶽 浩良（おおたけ ひろよし）

〔歴史学〕

〔文化財保護〕

昭和 20（1945）年 3 月 15 日生 （満 78 歳）

宇都宮市在住

氏は、大学卒業後、県立高等学校の教諭として勤務する傍ら、本県の歴史資料の調査や研究に励まれました。特に戊辰戦争や明治維新についての研究では、県内の第一人者であり、著書『下野の戊辰戦争』『下野の明治維新』を刊行されるなど、数々の論文発表や研究報告を行うとともに、栃木県歴史文化研究会に所属し、市民向け講座の講師を務められるなど、栃木県の歴史の普及教育に大きく貢献されています。

また、氏は、烏山町、宇都宮市、さくら市の文化財保護審議会の委員を歴任され、地域における文化財の掘り起こしや調査研究に携わられています。中でも、宇都宮市においては、「旧篠原家住宅」や「戊辰戦争宇都宮城攻防図」などの市指定や、「上野本家住宅」及び「旧芦谷家仮本陣」の市認定建造物の認定のほか、『宇都宮市歴史文化基本構想』の策定に携わられ、戦災記録保存事業報告書『うつのみやの空襲』の編集にも責任者として尽力されました。

さらに、真岡市、南河内町、芳賀町、今市市、二宮町、氏家町の市町史の編纂委員を歴任され、県内の重要な歴史資料の保存整理に尽力されるとともに、地域に受け継がれてきた数々の古文書を読み解き、その歴史を明らかにされるなど、栃木県の文化財保護に大きな功績を残されています。